

阿賀野川
aganogawa E-toko dayori

ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

「ドローンから撮影した、津川の河港跡と阿賀野川の麒麟橋」場所:阿賀町津川

もくじ

社会の変化を柔軟に取り入れる地域再生を目指して

デジタル化の次を見据えた
地域再生を構築するためには

新型「ロナウイルスの感染拡大が始まって、およそ2年が経過しました。昨秋には一時的に終息しかけたものの、今冬に再び新しい変異株の感染が拡大し、まだしばらくはウイズコロナの状況が続きそうな気配です。この間、社会の様々な領域がこの状況に対応するため、デジタル化へのシフトなど急速に変化してきました。今号でも特集しているように令和3年度のFM事業(※1)においても、これまでのバスツアーや対面式イベントに代わる新しい試みとして、ジンバル(※2)カメラやドローンを駆使して撮影した阿賀野川の動画を眺めながら、流域の歴史や現在を多角的に解説していくオンライン配信イベントを開催し、様々な方々から視聴していただきました。令和4年度は、社会的なデジタルシフトの流れがさらに加速しつつ、新型コロナウイルスの感染状況の変化に合わせてリアルとデジタルを融合させた試みが活発になると思われます。FM事業でも、こうした社会の変化を柔軟に取り入れながら、今後も新しい地域再生の推進を目指してまいります。

- 特集1 阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2021
- 特集2 阿賀の宝もん★発掘レポート(第9回)
- 特集3 阿賀野川古きヨーロッパをめぐる研究会
- インフォメーション 再生フォーラム(第10回)ほかお知らせ
- 流域

第34号

2022.3.15

令和3年度パネル巡回展

近年開催したイベントの成果を生かして、阿賀野川流域の水との闘い・水の恵みを、下記のとおりまとめたパネル作品です。

1 大河とドローン

2 大地の形成

3 イザベラ・バード

4 治水と用水

5 大河と産業

▶ 今後の展示案内

※両施設とも観覧無料

展示期間
3/12(土)~3/30(水)
9:00~16:00

展示会場
道の駅「阿賀の里」

展示期間
4/16(土)~5/15(日)
9:30~16:30 ※月曜日は休館日です。

展示会場
県立環境と人間のふれあい館

「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ!憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第34号はいかがでしたでしょうか? 新型コロナウイルスの流行が2年にわたって続いているため、今年度はFM事業のツアーやイベントをオンライン配信の形式で開催して、様々な方々からご視聴いただき、誠に感謝申し上げます。

令和4年度も新たな試みに挑戦してまいりますので、10月発行予定の次号もご期待ください!



今号表紙の写真「津川付近の大河」
阿賀野川が、麒麟山を挟んで支流の常浪川と合流する地点を、ドローンから撮影した一枚です。写真左側に阿賀町津川の家の並みと、「新河戸」と呼ばれる河港の跡、右側に麒麟橋の赤い姿が見えます。

阿賀野川えとこだより 第34号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2022年3月15日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ!流域通信
<https://aganogawa.info/>

//えとこだよりのバックナンバーも見れます!//

